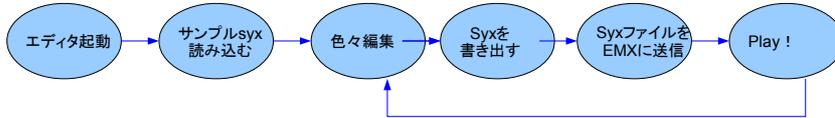


KORG EMX-1 パターンエディタ

このソフトは、KORG社製 ElectribeEMX-1シンセサイザーのシンセパートのシーケンスノートデータのの入力を支援する為のソフトウェアです。EMX-1で最も大変な音程入力を入力をサクサクするめだけに開発されています。音程と位置を決めて適当にゲートタイムを入れてシステムエクスクルーシブファイル(syx)を書き出し、それを他のフリーソフトでEMX1に送信・書き込み、あとは本体でいろいろエディットする、という使い方を想定しています。
 ※本ソフトは時々落ちますので注意して下さい。
 ※本ソフトは、Microsoft Visual Studio .Net 2010 Expressにて作成されています。動作には .Net Framework 3.5が 必要です。
 ※(お約束事項)本ソフトにかかる如何なる事象に対して本ソフトの作者は責任を問われたいものとします。本ソフトを使用することは本事項について承諾されたものとみなします。

作業の流れ



まず本パターンエディタを起動します。Readボタンしか押せない状態なので、サンプルのsyxを読み込んで下さい。これで編集ができる状態になります。編集については次の画面説明を参考に行ってください。編集後、WriteボタンでSyxを書き出します。この書き出したsyxファイルを、フリーソフト(Ez Midi DumpとかMIDI-OXとか)でEMX-1に送信します。これでEMX側のパターンが書き換えられ、打ち込んだデータを聴くことができるようになります。

画面説明

まずはsyxファイルを読み込みます。読み込みにはかなり時間がかかります。その後は、シンセパートを選択(リズムは選べません)、OSCタイプ(PCM波形)を選択します。それから音程とビートを選んで、クリックし、ゲートタイムを設定し、Writeボタン(上右。上左ではない)を押してデータを更新します。なお8分音符連打とかオクターブ違いで連打するようなパターンは、Editボタンでサブ画面から一気に打ち込みます(5度なども可)。あとOSCのChordの場合は、コード名をモーションシーケンスで打ち込みますが、その場合は画面上部のモーションシーケンスグリッドを選択し、モーションシーケンスの種類でシンセパートに対応したOSC Edit1を選択し、その後、ビート位置にChordタイプを設定し、Ch.Wボタンで書き込んでいきます。

画面の各部分に対する説明:

- Syxファイルを読み込む**: Readボタン
- Syxファイルを書き出す**: Writeボタン
- モーションシーケンスの種類**: 画面上部のメニュー
- パターン名、PCM音色、OSCタイプ**: 中央のコントロールパネル
- アルペジエータのスケールとベース音(scale_note)**: 右側のスケール設定
- シンセパートを選択**: 中央のシンセパートメニュー
- 選択された音を消去する**: Eraseボタン
- モーションシーケンスデータ**: 画面上部のグリッド
- ゲートタイムを設定**: 中央のゲートタイム設定
- データを登録・更新する**: Writeボタン
- 音がする場合、赤**: 音が入ったセルが赤くなる
- 小節単位でのコピーや消去 繰り返し音の生成 などのサブ画面に移動**: Editボタン
- モーションシーケンス内容の表示。横は8小節 縦は24パート。特にOSC Edit1でコードの場合に無指定となる値128の場合は背景が紺色**: 中央の表示領域
- モーションシーケンスの書き込み(Ch.W) 消去(Ch.E) 全消去(Ch.Cl) 書き込む時は、「モーションシーケンスデータ」に数値を入れる**: 下部の操作ボタン
- 音程とビートを選択 1マスが16分音符で全部で8小節分。小節の頭は青色。4分音符毎に色をつけてある。データがあれば紺色になる 上下にスクロールする。データを更新するには上のゲートタイムを設定してから、上右のWriteボタンを押す(上左のWriteボタンではない)。**: 下部の音程・ビートグリッド
- 終了(閉じるのと同じ)**: Quitボタン
- シンセパートの全ての音を消去**: Clearボタン
- モーションシーケンスのChordタイプ**: 中央のChordタイプ設定

画面説明続き

基準となるベース音

裏拍の音

対象の小節、終りの小節を指定(0~7)

SequentialNoteGenerate

base-note

Beat

AlternateNote

gate-time

連続音生成領域

measure

0 0

plural measures

Make

何小節目から生成するか(1小節目はゼロで指定して下さい)

音符(2分か4分か8分か16分か)

裏拍は1オクターブUp

裏拍は5度Up(5度でなくても指定可)

複数小節にまたがる場合はCheck

音程を生成する(決定) 既存のデータがあればクリアされるので注意。Undoはありません。

指定された小節にある音を消します。Undoは無いので注意

Clear

Clear

Copy

Copy

Oct-Up

Oct-Down

コピー元データの長さを小節数で指定(1~6)

コピー先データの長さを小節数で指定(1~6)

コピー先を繰り返すかどうかを指定

コピーするときはずらす音程を指定(半音単位)

コピー元の小節を指定(0~7)

コピー先の小節を指定(0~7)

Cancel(Close)

何もせずに画面を閉じるときに押します。

インストール

- ・EXEを適当なフォルダ名配下に配置してダブルクリックしてください。
- ・レジストリは使用しません(ファイルを読み込むフォルダ名だけ、ユーザフォルダのAppData\Local\emxpt\emxpt.exe_Url_*****\1.0.0.0にuser.configファイルを作成します)。
- ・動作させるには、システムエクスプローラをEMXに送信するソフトが必要です。
- ・MIDIポートがパソコンに装備されていて、EMXと通信ができることが必要です(できれば、INとOUTが両方繋がっている方が良いでしょう。システムエクスプローラをEMXに送信すると、EMX側から「受信完了通知」が来ます(F0 42 30 69 23 F7)。EMX側でエラーになった場合は、EMXから(F0 42 30 69 24 F7)が送信されてきます(当然、EMXの画面のパターンデータも更新されません)。

その他注意事項

- ・EMX-1システムエクスプローラは、KORG社が提供しているVer1.1(Sep.09.03)のMIDIインプリメンテーションチャートに基づく情報です。
- ・読み込んだデータより、出力されるデータのほうが大きくなる場合があります。
- ・動作確認環境
Windows Vista Business SP2 + MIDIインターフェース M-AUDIO AudiophileUSB + KAWAI MAV-8
- ・使用したSysエクスプローラソフト MIDI-OX(Download MIDI-OX <<http://www.midiox.com/moxdown.htm>>)
- ・Undo機能はありませんので編集は慎重におこなってください。
- ・バグが残っています。ソフトが落ちる可能性もありますので、適宜、上左のWriteボタンを押下しての保存をオススメします。
- ・EMXからデータを読み取るには、EMXに F0 42 30 69 10 F7 という7バイトのシステムエクスプローラを送信します。するとパソコン側の受信ポートがEMXに繋がっている場合に、F0 42 30 69 40 ~ で始まる4300バイト~5500バイトくらいのデータが送られてきます。本エディタでは、4300バイト~5500バイトのサイズであれば、読み取って表示・編集が可能です(なぜ大きさがまちまちになるのかはよく判っていません)。

記:作成開始 2010年8月13日 第一バージョン(ベータバージョン)は8月17日完成